

2009.5

第9号



# 青雲会会報

平成21年5月23日

編集・発行

青雲会(大阪大学法学部同窓会)

会長 森信 静治

事務局

〒560-0043 豊中市待兼山町1-6

大阪大学大学院法学研究科 地域研究交流センター内

TEL&FAX.06-6850-5198

E-mail seiunkai@law.osaka-u.ac.jp

<http://www.law.osaka-u.ac.jp/seiunkai>

印 刷 株式会社 アーツ One to one & Direct Marketing Company

ARTS



新会長ごあいさつ

会長 森信 静治 (新制24期)

## 青雲会をもっと活用しましょう!

1. 本年4月1日から森内賢一前会長から後を引き継いで青雲会の会長に就任しました森信静治です。

私よりふさわしい多くの諸先輩がおられますのに伝統ある阪大法学部青雲会の会長に就任させて頂きその責任の重さに身の引き締まる思いです。

私は昭和51年(1976年)卒業の新制24期です。ゼミは中野先生の民訴と松岡先生の国際私法でした。団塊ど真ん中で今年還暦を迎えます。昭和53年4月に大阪弁護士会に登録しましたので、本年で弁護士歴32年になります。平成16年度大阪弁護士会副会長をさせていただきました。

2. 大阪大学は、独立行政法人となり、法科大学院(ロースクール)ができ、大阪外大と統合し、文科系初の鷺田総長の誕生など大きな変化の中にいます。同窓会の役割はますます大きくなっています。大学の運営への参加、会員の親睦だけでなく、就職問題、業務拡大への支援、国際化、IT化などやれることはたくさんあります。オバマ大統領ではありませんが、同窓会もCHANGEが必要な時代です。司法界も法曹人口の増大や、裁判員制度など司法改革の大きな変化の渦の中にいます。同窓会の会長として、法曹界と実業界、大阪弁護士会(弁護士会)、経済学部など大阪大学の他の学部同窓会との架け橋の役割をはたすとともに、副会長、幹事、事務局の皆さんとの協力のもと、楽しく参加でき、役に立ち、心のオアシスになる「青雲会」を目指していきたいと思います。

3. 本年度私は次のテーマを実現したいと考えています。

### (1)名簿作成

2005年の名簿から4年が経過します。新たに名簿作成をしたいと思います。高等司法科、国際公共政策など多様化しており、わかりやすい名簿にします。

### (2)IT化の推進

ホームページを充実して、年1,2回メルマガを発行して青雲会の活動をより理解いただくようにしたいと思います。青雲会カードの活用も考えます。

### (3)総会、幹事会の活性化

総会、幹事会は参加しやすく、楽しめる会合になるようにみなさんのアイデアをいれて工夫します。青雲会設立(昭和29年 1954年)55周年の年です。本年度の総会は7月11日に開催します。講師は南部真知子さん(神戸クルーザー社長新制23期)で、夏にふさわしい船と人生の話をいただく予定です。多数ご参加ください。

### (4)同窓会活動の活性化

在学生、若手会員について就職情報、企業情報の提供サービスを、定年を前に第2の人生を考える会員向けにオアシス的な企画を、女性会員の参加しやすい企画を考えます。青雲塾を充実させて、外に出かけていく企画を考えます。

### (5)阪大の他の学部同窓会、他大学の同窓会との連携、交流

経済学部を始めとして、阪大の他の学部と連携、交流を深めます。京大、神戸大、関関同立など他の法学部同窓会との交流を図ります。

### (6)ご協力のお願い

会員のみなさん方の絶大なるご支援をお願いします。

# 青雲会名誉会長のご挨拶



大阪大学大学院法学研究科長

大阪大学法学部長

中尾 敏充(経済学部新制21期)

同窓会の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より皆様には何かとご支援をいただき、感謝しております。

昨年4月、法学部国際公共政策学科に第1期生が入学し、従来の法学科と合わせて250名を超える新入生が入学しました。この国際公共政策学科は、大阪外国语大学との統合を活かして、国際性を身に付け、国際的な諸機関で活躍できる人材の養成を重要な教育目的として設置された新設の学科です。この学科には、男子学生よりも女子学生が多く入学しています。

この1期生の学生たちが十分な教育を受け、その学識を身に付けて社会に羽ばたいていくことを手助けすることが当面、法学部に課せられた重要な責務の一つであると考えています。この学科では、高等司法研究科(法科大学院)だけでなく、国際公共政策研究科および経済学部の教員が協力してその役割を果たすことになっています。

また、大学院法学研究科は、昨年より、知的財産法プログラムを立ち上げ、そのコースの修了生には、特許庁による弁理士試験科目の一部免除の特典が与えられます。大阪大学の学生・卒業生は、この弁理士試験の合格者数において常に上位3位以内に入っています。この知財法プログラムは、理系の学生からも注目されているところです。平成21年度は、理系の学生を含む10名の院生が入学予定です。

こうした法学研究科の取り組みが大学側の注目するところとなり、平成22年度概算要求の「一押し候補」として、知財センター(IPRism)の設置が挙がっています。

他方、大阪大学は、鷲田清一総長のもとで、「Ground Plan」を発表し、① 教育における「教養」(広い視野に立った確かな社会的判断力)と「デザイン力」(自由なイメージーションと横断的なネットワーク構成力)と「国際性」(異なる文化的背景をもつ人をよく理解するコミュニケーション能力)を伸ばすことで、問題を複眼的に見る資質を育むこと、② 研究における「基本」と「ときめき」と「責任」を強く意識しながら、基礎研究に深く根を下ろしつつ、科学の新しい地平を切り開くような先端的な研究をさらに推進することをめざし、世界最高レベルの研究拠点大学として、その役割を果たすことを謳っています。

これらの取り組みのなかで、「阪大スタイル」にもとづく改革をあらゆる分野で進めています。この阪大スタイルは、現職の教員、職員、学生だけでなく、阪大出身のOB、OGを含むオール阪大関係者の参加のもとでの改革を打ち出しているところに特色があります。その改革の重要な柱の一つに、社学連携の取り組みが位置づけられています。

平成20年度の卒業式は、大阪市中央体育館で開催され、学部卒業生や大学院修了生だけでなく、親御さんやOB、OGの方々の参加も含め、大阪大学の一体感を示した感動的な取り組みとなりました。おそらく、平成21年度の入学式もそのような一体感を感じるものと確信します。平成21年度の卒業式からは、大阪城ホールで開催されます。

5月2日(土)には、第4回 Home Coming Day が豊中キャンパスで開催されます。また、7月25日(土)の天神祭には、「阪大船」の船渡御が行われます。これらの取り組みも、この「阪大スタイル」の具体的な活動として位置付けられています。

青雲会の皆様方のご参加を楽しみにしています。

最後になりましたが、法学部の同窓会である青雲会からは、法学部創立記念の周期毎に人的・物的な支援をいたしました。現在、大阪大学は、創立80周年記念に向けて、その取り組みの具体化とスピードアップに努めているところです。同窓会の皆様には、今後とも引き続きご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

# 高等司法研究科の近況と一年の抱負



高等司法研究科長 松川正毅

青雲会会員の皆様には、高等司法研究科に格別のご理解とご支援をたまわり、心からお礼申し上げます。

高等司法研究科は、平成21年3月に、学位授与機構による法科大学院認証評価で、適合の評価を得ました。法科大学院では、評価基準が明確に定められており、すべての項目にわたって適合の評価を得なければ、適合との評価がなされません。この適合の評価を得ることは、決して容易なことではありませんでした。高等司法研究科が適合の評価を得たことは、たいへん喜ばしく、これでひとまず、法科大学院として完成したと言えます。適合の評価を得ますと、適合マークの利用が許されます。近々公刊されます平成22年度の法科大学院のパンフレットの裏表紙にこのマークが入っていますので、ぜひご覧下さい。

法科大学院は、日本全国で2004年に創設され、すでに5年が経過しました。この創設は、司法制度改革の大きな事業の一つでした。法科大学院の創設とともに、文字通り、法学教育が大きくかわりました。システムティックなカリキュラムのもと、厳格な成績評価など、かつての法学教育とは質的にも量的にも異なっています。教員にすれば、かつての法学部時代では考えられない程の、仕事量になっています。一方で、未修者の教育をどのようにするかなど、法科大学院が抱えている問題は、まだまだ山積しています。また他方で、このような時代にあって、法学部での教育のあり方など、近未来に大きな問題を投げかけつつあります。隣国の韓国では、法科大学院が本年から開始しています。日本の改革を真剣に検討し、法科大学院として認められる大学の数を限定し、しかも法学部を廃止したと聞いています。わが国の法律学の教育も、まだまだ変遷を繰り広げる予感がします。

法科大学院の時代になり、教員には余裕がなくなってしまいました。この表れとして、教員の論文の数が少なくなったといわれています。出版社も、法科大学院の教員に原稿の催促しても無駄であると、あきらめているのだそうです。これは、たいへん憂慮すべきことがらです。本来、大学での教育は、教員の研究に裏打ちされたものであるからです。この点、しっかりと認識していかなければならないと痛感しています。高等司法研究科で、よき教育を実現するためには、教員が充分に研究し、各々の専門分野でトップランナーでなければならないのです。今年度は、この点に特に留意していきたいと思っています。

高等司法研究科の学生は、よく勉強しています。人生のほんの2、3年の期間を法律の勉強に捧げる訓練の場となるように、勉学環境の緊張感を大切にしたいと思っています。法律の勉強は、中途半端であれば、何も身に付かないことは、永い伝統の中で明らかのことです。

学生の努力と教員の切磋琢磨とが、うまくかみ合うように、舵取りを行って行きたいと思っています。高等司法研究科は真のよき法科大学院に向けて大きな一歩を踏み出しています。高等司法研究科で何が起こり、何を目指しているのか、司法試験合格率などをお知らせするために、昨年、ニュースレターを公刊しました。ご覧下されば、幸いです。

# 国際公共政策学科長 就任のご挨拶



国際公共政策学科長

松繁 寿和

国際公共政策学科に第二期生が入学してきました。全学共通科目あるいは専門の入門や基礎科目ではあるものの学科に関係した教育が始まり、学生からも教員からも多少の緊張と新たなことを始めるという高揚感が伝わってきます。

新学科は世界を舞台に活躍できる人材を育てることを目的としており、そのために必要とされる素養の確立や技術の習得を目指したカリキュラムが組まれています。伝統的な法学や政治学教育を重視することには変わりはありませんが、これまでの法学部にはなかったような科目もそろえられており、今回はそれらを紹介してみましょう。

大きな特徴は、三つあります。外国語能力の向上、経済学関係の科目の導入、そして実証的姿勢の育成です。

外国語能力の向上はいうまでもなく、将来現実に使えるレベルまで外国語を習得することであり、単に翻訳能力のみを求めるものではありません。国際社会において、自分の力で交渉をまとめたり複雑な構造を持つ問題を解決したりするには、かなり高いレベルで他の言語を操る必要があります。もちろん、学部の4年間だけでは短すぎ十分な訓練を行えませんが、少なくとも外国語能力を継続して伸ばしていく環境を獲得できるだけの準備を整えて卒業できるように授業を充実させたいと考えています。

現在の社会問題を理解する上で、経済学の知識も必要です。今、世界経済が直面しているサブプライムローンの崩壊に端を発した世界同時不況は、まさに経済問題です。貧困を解決するには、制度や法律を整備すること、平和で安定した統治を維持すること等が重要であることはいうまでもないことですが、富を作り出すためには国内産業の育成や雇用の創出などの経済問題を解かねばなりません。実際、世界銀行やIMFで活躍するには、経済学博士を取得しておくことが必要条件となっており、高度な水準の経済学を理解したエコノミストが求められています。

さらに、現実の政策効果の測定や政策評価を行うには、実証的姿勢とそのために必要な技術の習得が必要です。現実の社会では理論通りに結果が現れないことが多く、政策の是非、あるいは、理論の妥当性を検証する作業は避けられません。その一つの手段が統計学であり、新学科では統計学の習得も求められます。

新学科の第一、二期生は、国際指向が強く、留学を視野に入れ準備をしている学生や、海外の出来事に強い関心を示す学生が多く、阪大の中では高い活力をもった学科であると思われます。彼らがどのように育っていくかを思い描くのは楽しいことですが、同時にわれわれ教員が担っている責務の大きさも認識させられます。

# 第5回東アジア地域連携フォーラム(FEAL)



帝塚山大学法政策学部助手  
大阪大学大学院工学研究科助教兼任  
大阪大学大学院法學研究科博士  
後期課程

金 美 善

東アジア地域連携フォーラム(FEAL)は、人と人、地域と地域を信用と信頼によって結ぶことによってよりよい未来につなげるための研究者・教育者と実務家からなる学会です。グローバルで総合的な視点から東アジア地域の社会や制度を研究することを通じて、同時に未来につなぐ次世代のリーダーを養成することを目的として、日本の大阪大学、中国の復旦大学、韓国の建国大学が連携し、毎年大会を開催しています。第5回の今年は、(3月21日～22日)2日間「アジアの未来のための法曹教育」というテーマで、建国大学で開催されました。

今回の大会には、多胡名誉教授から当初から今回までの取り組みを含む祝辞をいただき、コメントーターとして三成教授、報告者として松川高等司法研究科長(都合により中尾法学研究科長・法学部長代読)が参加され、その他に床

谷国際公共政策研究科長を含む4名の先生方が出席されました。

1日目のFEALの本大会では、よりよい法曹を育てようとしている日中韓が、相互の経験と知見から何を提供できるか、何を学べるか、東アジアのよりよい未来を作るために法律家は何ができるかということを、「法曹の社会的責任と教育」、「創造的法律家の養成」、「法律技術と法曹教育」の主題に分けて、報告とディスカッションを行いました。3国とも、グローバルな法曹育成の必要性について共感しながら、その実行の難しさに直面していました。

2日目は、次世代部会「アジアの未来を創る会(亜未会)」が開催されました。亜未会は、東アジアの共存、繁栄、平和のために、若い人材の連携と連帯が最重要であるという共通の認識のもとに、FEAL事業の一環として設立され、その趣旨に共感する学生が、相互の理解の深め、未来をデザインしていくことを目的としています。今回は9名の学生が、各国の法曹養成教育の特色を紹介し、臨床教育の状況、法科大学院におけるグローバルな法曹教育の難しさなどについて分析を行い、英語での報告とディスカッションを通じて、将来の学者、実務家としての姿勢を学びました。

第6回の大会は、来年の3月末に上海の復旦大学で、「日中韓の制度間信頼構築と相互承認」というテーマで開催されます。法学だけでなく、様々な視野から議論を行い、東アジアの未来のためになる大会になることを信じています。

## 2008年(平成20年)の青雲会 行事報告

平成20年度の青雲会行事の概要は下記の通りです。

### 1. 平成20年度総会

平成20年7月5日(土)大阪弥生会館にて開催いたしました。  
10:30～総会・講演 12:00～懇親パーティー  
講 演：テーマ 「待つことの意味」  
講 師：大阪大学総長 鷲田清一 氏

### 2. 留学生への奨学金付与

本年度は、易佳琦さん(中国上海市出身)に決定いたしました。  
なお、易さんのことについては、7ページの座談会をご覧ください。

### 3. 懸賞論文

今年は激戦のため、1席が2名となりました。

1席 法4 前畠 大志 君  
「政教分離の法的性質と違憲審査基準」

1席 法2 小林 幹 君  
「人道的介入における  
Question of the Right Authorityについて」

佳作 法3 富永 瑛里さん  
「コンプライアンス法制化」

### 4.幹事会

4月22日、6月17日、9月9日、12月5日、2月17日に開催しました。参加人員は毎回30名前後の幹事が出席し、青雲会の運営方針を決定しています。

19期以降の幹事を募集しています。

### 5. 執行部と大学側との懇談会

平成20年11月19日、正副会長と大学側との懇談会を開催し、外大との統合後の新大阪大学等について意見交換・情報交換を行いました。

### 6. 先輩コンニチハ

企業への就職希望学生に対する当該企業勤務の窓口先輩を紹介する活動は、懸案事項として来年の活動に持ち越すこととなりました。

### 7. 卒業祝賀会

今年も準会員であった学生を正会員として迎える青雲会主催の記念パーティーは、平成21年3月24日阪大文系総合研究棟にて開催され、学生の企画したゲーム等で盛り上がりました。なお、サントリー様より飲み物全てのご寄贈をいただきました。

## 東京支部だより

東京支部長  
藤渕 義信(新制13期)



1. 日本経済、いや世界経済は現在、未曾有の危機の最中ありますが、同窓会活動は、その力を一層発揮すべき時だと思って運営にあたっております。
2. 昨年度も東京支部総会を開催いたしました。11月21日(金)「喜山俱楽部」にて。総会には、中尾敏充法学部長、青雲会森内賢一會長にご臨席いただきご挨拶いただきました。ありがとうございました。続いて、経済学部の堂目卓生教授による「経済と倫理:アダムスミスに学ぶ」講演を聞き久しぶりに講義を受ける気分でいました。(今回の講演は、東京待兼会との合同講演会として開催したものです。)

東京支部 連絡先 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9 天龍ビル5F 杉政静夫法律事務所内 TEL 03-3355-6575 FAX 03-3355-6576

## 名古屋支部だより

名古屋支部長  
平野 修義(新制10期)

2008年も経済学部同窓会と協力して名古屋待兼会を運営しました。2、4、6、9月の例会ではそれぞれ  
「青山圭秀の世界」  
「ガソリン税の暫定税率について」  
「会社法と金商法による内部統制」  
「鈴木商店 栄光と挫折」  
のテーマで参加の同窓生から、約30分お話があり、その後酒食をしながら、質疑応答、懇談を楽しみました。  
11月の総会に本年は経済学研究科齊藤慎教授にご出席いただき、  
① 地方財政の現状  
② 大阪大学法人化の状況  
③ 経済学部創設60周年記念事業

総会後の懇親会では東京待兼会会員ともども和気あいあいで楽し<sup>く</sup>過ごし、盛会裡に無事終了しました。

3. 最近は、東京待兼会との合同講演会が定着し、両会の連絡、情報交換、連携がより一層進められています。昨年は合同講演会を2回開催いたしました。7月5日(土)には、日本郵政株式会社西川善文社長に、郵政民営化の現状と課題につきお話をいただきました。140名の参加者で皆さん関心高く、熱心に聴いておられました。11月21日は、上記のとおり、経済学部堂目教授による講演を開催いたしました。
4. 東京支部では、従来から、ゴルフ部が活発に活動されており、毎年3月と9月にコンペを開催し、盛大に楽しんでいます。ゴルフでも待兼会との合同コンペで親睦を深めております。
5. 最近は幹事会の開催回数も増やし、意見交換の場を多くしております。支部の活性化、総会100名出席を目指して努力していきます。

などについてお話しいただき、引き続いて恒例の総会事項の報告等が行われました。当年のこれら5行事の参加延べ人数は初めて100名を超える106名でした。

また、ゴルフ同好会も春、秋の2回実施いたしました。  
東海地方の同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。



名古屋支部 連絡先 〒464-0072 名古屋市千種区振甫町3-26 平野 修義 TEL&FAX 052-711-1008

## 囲碁同好会にご参加ください

毎月第二土曜日(13:00~17:00)青雲会交流センターで開催しています。

昨年は恒例の「青雲会杯争奪囲碁大会」開催、「全国社会人団体選手権」出場、「オール阪大囲碁大会」参加の外、阪大囲碁部との囲碁交流会を実現しました。

現役阪大生10名、当方12名の総勢22名で大いに盛り上がった交流会となりました。

お問い合わせは

幹事 神田 三嗣(新制11期)まで  
TEL : 072-792-2722  
メール : m.kanda@chive.ocn.ne.jp

## 青雲会ゴルフコンペ

春秋年2回、コンペを重ね本年5月で52回、通算26年で大変伝統のあるコンペとなりました。現在は、2期から30期前後の方々が参加され、毎年新しいメンバーが増えています。

“人生山谷あり”山岳コースの多い関西で、登りに苦しみ谷に驚き池に泣き、ボールに思いを込めて和気あいあいと、楽しいコンペを行っています。

多数のご参加をお待ちしています。

参加ご希望の方は、

「青雲会」事務局

(06-6850-5198)

までご一報ください。



# 第9期 青雲会奨学生(法学部留学生) 座談会

平成20年度の青雲会奨学生は、  
中国出身の易 佳琦(イ チャチ)さんです。  
森内会長からお話を伺います。  
(仲田副会長、青木事務局長同席)

**森内** 青雲会は、海外から阪大に留学して下さっている留学生への支援になればということで、9年前から奨学金支給制度を実施しています。今年は中国・上海出身の易 佳琦さんが選ばされました。先ず奨学生に選抜されたことの感想をお聞かせください。

**易** 奨学金のお陰で昨年9月からアルバイトの時間を少なくし、勉強に専念できました。私の興味のある語学も勉強できました。日本語と英語そしてフランス語と韓国語も勉強でき、学校の第二外国語はフランス語を選びました。

**森内** 留学先を日本にされたきっかけは何ですか。

**易** 私の父親が日本人と一緒に会社を経営していて、幼いときから父の出張でおいしい食べ物など、日本のお土産を持って帰ってくれましたから、日本へ行きたいと思っていました。それに、日本はすごく近いので留学先として人気が高いのです。

日本人のイメージは真面目で勤勉であり、憧れます。日本を代表するメーカーであるパナソニックやソニーなどは技術も優れており、そんなイメージからも留学先として魅力を感じていました。

**森内** 上海の大学で1年間勉強された後日本へ来られ、阪大に入学されたと伺いましたが、日本の大学の中で、大阪・阪大を選ばれたのはどうしてですか。

**易** 父親の話では、大阪人はすごく温かで、やさしくしてくれると思いました。阪大は大阪で一番良い大学で、阪大のシラバスを見て興味がある授業やゼミがあって他の大学にはない魅力を感じました。

**森内** 実際に日本に来られて、来る前と違うと感じたこと、何かありますか。

**易** 「すみません」という言葉について、父はよく使っていましたが、日本に来てバイト先でも学校でも謝るだけでなく、色んな気持ち—ありがとうございます—迷惑をおかけします—があり、日本人の気配りに感心します。

**森内** 日本語に堪能となっておられますか、日本語が難しいと感じられることは何ですか。

**易** いまでも敬語は上手く使えません。大阪弁は「～へん」とか、「そやな」など周りの友達は関西出身の人が多いので慣れました。

**森内** 食べ物について苦手なものがありますか。納豆やお刺身などはどうですか。

**易** 私は納豆のにおいは好きです。お刺身も口に合います。上海には海鮮の店や日本料理店が沢山あります。

**森内** 日本の文化、観光地などで興味を持たれたものはありますか。

**趙** 昨年の7月に北海道に行き、富良野でラベンダーの花、函館で夜景を見てきました。次は東北に行ってみたいです。



**森内** 大学では、どこのゼミに入って、何を専門に研究されていますか。

**易** 國際政治のゼミに入り、日本、中国、韓国、アメリカの比較政治のことに興味を持って勉強しています。将来国際的に活躍できる人間になりたく、日本と貿易関係のある会社・商社に入りたいのです。日本で勉強した知識を生かして日本と中国の架け橋となりたいのです。

**森内** 日常生活で苦労していることなんかはありますか。

**易** 苦労したことはありません。周りの友達に恵まれ、大学で良い友達が一杯でき、日本人の友達から勉強を教えて頂きました。

**森内** 趣味はありますか。

**易** 趣味は旅行と料理です。一人で日本で生活しているからたまにホームシックになるときは、故郷の味を求めて中国人向けスーパーで食材を買って料理します。

**森内** 日本と中国の関係でこれが問題だと感じたことや理解して欲しいことなど何かありますか。

**易** 周りの中国人の友達は、靖国問題や教科書問題は気に入らないと言っています。

私は日本のマスコミは、昨年の北京オリンピックの前に取材して北京の高層ビルがあるのに裏町の貧しい人の生活しているところだけを紹介しているのは問題だと思います。中国は5千年的歴史を持ち信用できる国だと思います。経済発展しているところなので、悪いところもありますが良いところを見付けて欲しいと思います。

**森内** 来年は上海で万国博覧会が開催されますね。

**易** これを機会に上海・中国という国を良く知っていただくよう日本や世界の人に来て欲しいと思います。私は2006年愛知万博に行ってきました。

**森内** お忙しいところを来て頂いて有難うございました。青雲会としては、今後とも勉学に励まれ、ご活躍されることを願っています。卒業されても何らかの形で、同窓会の一員として、ご連絡頂くと有難いです。今年の総会は7月11日に大阪弥生会館で開催されますので、是非ご出席ください。

**易** はい、喜んで出席させていただきます。



## 「時は流れて60年」

初代会長 石原 博（旧制1期）



平成20年5月12日旧制法文学部入学60年の集いがミュージアム「坂」で行われた。

今回の集いはかねて東京の渡辺洋一君より提案があり、漸く実現したものである。入学以来60年の歳月が経過し、果たしてどれだけあつまるかは大きな課題であった。召集するに当たって関東は渡辺洋一君、関西は三輪省三幹事長が手分けをして参加を呼びかけた処、法学科は7名、経済学科は1名の賛同を得た。それに日頃青雲会の運営でお世話になっている森内会長、黒田副会長、青木事務局長を招待、計11名で開催される事になった。

会は形式通り出席者各位の健康を祝して乾杯、その後は60年間の空白を埋めるべく順次卒業以来今日に至る迄の経過や近況を報告して貰った。お互に久潤を叙して盃を重ね、宴酣となるに従い齢80に達した事も忘れ、青春時代にタイムスリップして談論風発懐旧談に花が咲き、時の経つのも忘れ楽しい歓談の一刻を持つ事が出来ました。

思い起こせば戦後間もない昭和23年、大阪財界や地元の熱い要望と戦前より法文学部の設置を望んでいた阪大の悲願と相俟って法文学部が設立された。当初法学科は定員僅か40名、待兼山の旧制浪速高校の校舎の一部で授業が始まった。教授陣は少壯氣鋭、学生も又新生の意気に燃え、先生と膝を交えて講義を受け自由闊達な雰囲気に溢れていた。卒業後、戦後の就職難の時代とは言え、諸先生の並々ならぬ御尽力により大半が一流会社に就職する事が出来た。吾々も又法学部のパイオニアとして社会の各分野に於いて活躍し、日本の再建に貢献したと自負して居り功成り名遂げた今、その容貌には「いぶし銀」の如き風格さえ漂っているのを感じたのは私一人ではなかったと思っている。

60年の思い出を語り尽くすには余りにも短時間であったが、「坂」のテラスにて記念写真を撮り、母校の目覚ましい発展に感銘を受け再会を約して閉会となつた。

当日の出席者は次のとおり

法 学 科	荒木 豊治郎	石原 博
	樋川 忠雄	永山 久夫
	三木 敏雄	三輪 省三
	渡辺 洋一	
経済学科	角井 寿保	
青 雲 会	会 長 森内 賢一	
	副会長 黒田嘉次郎	
	事務局長 青木 克夫	

(敬称略)

# 「外交の厳しさ、楽しさ」

外務省外務事務次官 薮中 三十二（新制18期）



私は昭和41年に大阪大学法学部に入学しました。このところ、中嶋君という名幹事のお陰で、この時の東京在住仲間が年に一、二度、集まる機会があります。ありがたいことに、この時ばかりは仕事のストレスからも解放され、皆の元気ももらい、大いに若返っています。

先日は外務省でも入省式があり、若い仲間を迎えるました。大阪大学からも数人の卒業生が新しく外務省に入ってこられました。早いもので、私自身、外務省に入つて40年になりますが、入省式では次のようなはなむけの言葉を贈りました。「君たちは、官僚バッシングの時代によく官僚になる道を選択しましたね。しかし、外務省に入る、その決断は間違っていなかった、そう思います。外務省は、外交のプロの集団、日本外交に責任をもち、大事な仕事を任される。外務省で働くことの特殊性は、常に国家の視点をもって仕事をすることです。日本はどうあるべきか、日本が外国でどう見られているか、日本を外国にどう売り込むか、常に国家的視点をもって仕事をする、これは大変に重要で、また、得難いことです。そしてもう一つ、外務省で働くことのメリットは、実に様々な勉強ができることです。安全保障、軍縮の問題から経済、経済協力、気候変動まで、あらゆる分野が関係してきます。そしてアジアからロシア、中央アジア、中東、アフリカなど、様々な地域の専門家にもなれる、ある意味、一生、勉強できる職場もあるのです」、こう語りかけ、「指示待ち人間にだけはならないでほしい、自分の考えをもち、世界に発信できる力をつけてほしい」、そう呼びかけました。

実際、私自身、これまで40年の外務省生活を通じ、外

交にたずさわることの辛さ、厳しさはもちろんですが、醍醐味、楽しさもずいぶんと経験させてもらいました。日米経済摩擦交渉や韓国、中国との漁業協定交渉は交渉の最前線に立ち、徹夜の交渉もしただけに、印象深いものでした。最近では、北朝鮮との交渉は困難の連続でした。また、G8サミットの総理個人代表、いわゆるシェルバも務めました。これはG8サミットの諸々の準備の責任者だけに厳しい仕事でしたが、シェルバ仲間の友情が生まれ、楽しい経験もしました。このような外交の現場での経験を通じて痛感するのは、国際社会では①ロジック、つまり論理だった話し方が大事なこと、②受け身ではなく、攻めの姿勢が大事なこと、③共感を持ってくれる仲間を多く作ること、そして④国際ルール作りで指導力を發揮することの重要性です。日本では重視されないどころか、かえってマイナスの評価も下されるのが「論理だった話し方」でしょう。あいつは理屈っぽい、とかいったマイナスの評価です。ところが国際社会ではロジックのない発言や提案は何の評価も得ません。そして「受け身の姿勢」もいけませんが、日本では往々にしてこの姿勢がみられます。アメリカは何を要求していくだろうか?といった類の対応ぶりです。ノーと言い、言い訳をするのではなく、何が出来るかを明言し、打って出ることが大事です。最近では、アフガニスタンの問題をめぐり、日本から「日本はアフガンで学校を500作り、1万人の教師を育成し、30万人の生徒に教育を与えた。また、50のクリニックを作り、4000万人にワクチンを供与した。今、60人のJAICAの専門家が農業や保健分野などで活躍している。これからは警察支援もする考えだ。」とアメリカに説明、従来は自衛隊の派遣などを求めてきていた米側も、オバマ政権に変わったこともありますが、大いにこの民生面での日本の貢献を評価してくれました。

これなど一例ですが、日本の出来ること、得意なことを中心に世界に積極的に打って出したい、環境、軍縮、途上国の国作り支援など、日本が得意な分野で、もっと声を大きくし、国際社会をリードするくらいの意気込みで日本外交を進めていきたいと考えています。もちろん、日々の外交は難題山積ですが、せめて心意気は大きくと思っています。

# 平成21年度 青雲会総会のご案内

## テーマ 「“運命の船”と私」

日 時 平成21年7月11日(土) 午前10:30開会

10:30-12:00 総会 講演

12:00-14:00 懇親パーティー

会 費 6,000円 (学生3,000円)

ご出席の方は、会費の前納をもって申し込みとさせていただきます。同封の払い込み用紙をご利用ください。

払い込み期限 6月26日(金)【必着】

講 師 南部 真知子氏(新制23期)

[活躍されているところ]

株式会社 神戸クルーザー 社長

株式会社 コンチエルト 社長

サンテレビジョン ニュースシグナル コメンテーター

神戸学院大学 客員教授



## 場 所

### 大阪弥生会館

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目4-53

TEL.06-6373-1841 ※駐車場は無料



#### 【電車によるアクセス】

JR大阪駅 中央北口徒歩5分

阪急梅田 茶屋町口徒歩5分

地下鉄御堂筋線梅田駅 5番出口徒歩5分

## 「青雲塾」会員へのお誘い

本年度より、青雲塾のテーマは「楽しめるテーマ」になります。ぜひ会員にご登録ください。

会員の方には、その都度開催案内をご送付申し上げます。

ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

TEL.06-6850-5198

## 平成20年度決算報告と平成21年度予算 概要

(単位:千円)

収入の部		支出の部			
項目	平成20年度 決算	平成21年度 予算	項目	平成20年度 決算	平成21年度 予算
会費収入	6,932	6,900	総会費	486	600
懇親会収入	486	600	会報費	1,902	1,950
その他収入	671	220	留学生奨学生	600	600
			ロイヤリング	300	300
			高等司法基金援助	300	300
			ソフト維持費	305	310
			懸賞論文	241	230
			支部助成金	370	370
			一般助成金	163	270
			人件費	1,008	1,050
			その他経費	1,225	1,190
収入 計	8,089	7,720	支出 計	6,900	7,170
収支差額				1,189	600
前期繰越金				21,288	22,477
次期繰越金				22,477	23,077

\*本案は総会でご審議いただきます。

## 青雲会 本部役員 (任期 21年4月1日～23年3月31日)

職 名	氏 名	期	担 当
名誉会長	中尾 敏充		
会長	森信 静治	新制24期	
幹事長	三輪省三	旧制1期	
副会長	黒田嘉次郎	新制18期	会報*留学生奨学生
副会長	山本茂伸	新制22期	総会*就職活動
副会長	松井繁幸	新制23期	青雲塾
副会長	松本克己	新制26期	就職活動
副会長	西畠一哉	新制27期	懸賞論文*就職活動
副会長	三木秀夫	新制30期	総務*総会
副会長	西井秀行	新制36期	若手活性化*ホームページ
副会長	神川朋子	新制40期	女性活性化*留学生奨学生
副会長	嶋津裕介	新制45期	懸賞論文*若手活性化
事務局長	青木克夫	新制7期	
懸賞論文審査	出水順	新制19期	懸賞論文
ホームページ監修	鵜飼康史	新制39期	ホームページ

## 青雲塾のお知らせ

青雲塾担当 松井繁幸(第23期)

三木秀夫副会長から青雲塾のバトンを受けました。とにかく、楽しくやりましょう。

《参加資格》青雲会会員の他、会員の紹介のあった人(家族、友人、知人)も大歓迎です。

《開催頻度》年、4回とします。《場所》青雲会交流センターの他、テーマに応じてふさわしいところに設定します。

《テーマ》まったく、しばりはありません。アカデミック、ビジネスからエンタテインメント系まで硬軟とりとめのバリエーションを目指しています。

《講師》青雲会会員にかかわらず、外部講師も含めて広く考えています。「この人に、この話を聞きたい」というご希望があれば是非ご紹介ください。自薦、他薦を問いません。青雲会事務局のメールアドレスまでお寄せください。案内を希望の方も。なお、最近2回の開催内容は次のとおりです。

■2009年2月27日 「江戸の言葉遊び『雑俳』へのいざない」(松井繁幸<第23期>)

■2009年5月10日 「万葉を歩く『シリーズ(第1回) 佐保路篇』」(森内賢一<第18期>)

## 青雲会事務局からのお知らせとお願い

●宛名印刷をご利用ください。パソコンのシステム近代化に伴い、宛名印刷が出来るようになりました。皆様の同窓会開催案内等にご利用ください。(費用:無料)

●事務局オーブン時間 事務局は、大阪大学豊中キャンパス(石橋)、大学院法学研究科棟2階にあります。月、水、金曜、9:00～14:00に在室しておりますので、御連絡をお待ちしております。

青雲会事務局 青木 克夫(新制7期)

黒田嘉次郎(新制18期)